

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 昭和 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	53 人	国語B	53 人
② 算数A	53 人	算数B	53 人
③ 理科	53 人		

5 留意事項

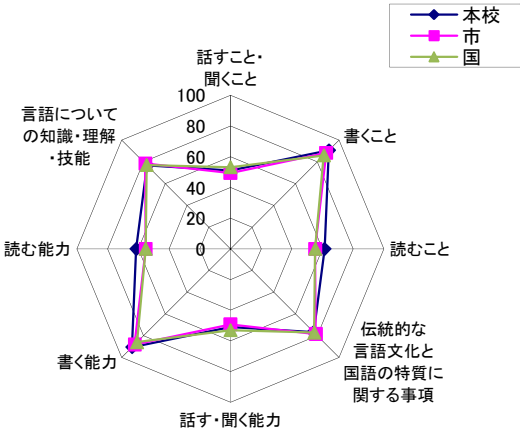
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

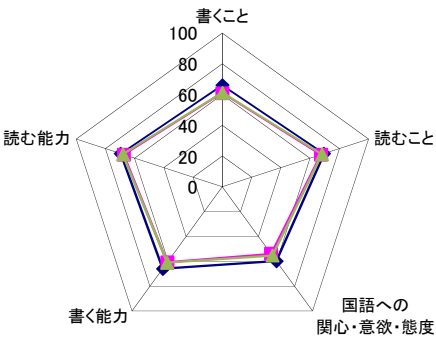
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	50.9	49.3	53.0
	書くこと	90.6	88.2	86.0
	読むこと	61.3	55.2	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.7	78.5	77.2
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	50.9	49.3	53.0
	書く能力	90.6	88.2	86.0
	読む能力	61.3	55.2	55.2
	言語についての知識・理解・技能	76.7	78.5	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	66.0	60.9	61.1
	読むこと	69.5	67.4	68.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	59.9	54.0	55.4
	話す・聞く能力			
	書く能力	66.0	60.9	61.1
	読む能力	69.5	67.4	68.1
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○国語の授業は大切だと思い、学習したことが将来役に立つという肯定的なとらえ方をしている児童がともに95%を超えており、大変多い。また、相手にうまく伝えるように話の組み立てを工夫して意見を発表しようとするなど、国語に関する設問では、すべての項目にわたって肯定的な回答が全国、県平均を上回って多く、様々な場面で、話す・聞く・書くなどの力を活用する場面を設定し、力を付けさせていきたい。

●「今回の国語の問題について、解答を文章で答える問題がありましたが、どのように解答しましたか」という設問に対して、「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と答えている児童の割合が高い一方で、全くの無回答の児童も多い。このことから、自分に甘い評価をしている児童が多いことが考えられるので、中学校での学習を見据え、自己の能力を正しく捉え、正しく書く力がしっかりと身に付くように指導していきたい。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

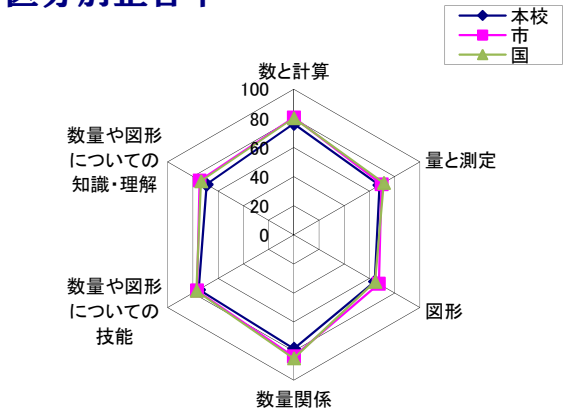
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●話すこと・聞くことについての得点は、国や市の平均をわずかに上回るものの、全国平均よりも低い。今回は対象となる設問がA・B合わせても1問しかないの、評価はしにくい、聞き方の説明として適切なものを選択する問題で、話の内容に対する聞き方を工夫することがやや苦手であると言える。	・話すこと・聞くことの大切さについては日常生活も含め、重点的に指導してきた学年ではあるが、聞いているように静かにしていながら聞けていない実態が出てきたものと考えられる。国語の技能としての聞き方の工夫をあらためて指導し、力を身につけさせたい。 ・そもそも全国平均値そのもので、今の児童が書くことなどに比べ話すこと・聞くことが苦手なことが目に見えており、指導の重要性が感じられる。
書くこと	○国語A、Bともに市、全国の平均を上回っている。 ○国語Bの文章の要旨を捉えて書く問題の正答率が高かった。 ○国語Bの声に出して読むときの工夫とその理由を書く問題で、正答率が高かった。 ●国語Bの目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く問題で正答率が低い。	・要旨を捉えて書いたり、音読の際の工夫を書く問題に対して正答率が高いことから、繰り返し学習してきたことが身に付いてきている様子がうかがえる。 ・一方で、インタビューしたことを整理して記事に書いていくなど、経験が乏しいと思われる問題で正答率が低かったの、様々な書く経験を通して学びが深まるように、多くの機会を用意し、指導していきたい。
読むこと	○国語A、Bともに市、全国の平均を上回っている。 ○国語Aの新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える問題の正答率が高かった。 ○同様に国語Aのコラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く問題の正答率が高かった。 ●国語Bの登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える問題で正答率が低い。	・中には全国平均でも20%に満たない正答率の問題もあったが、その問題において表現の工夫を正しく読み取ることができた児童が25%近くいたことは、大変喜ばしい。幅広く苦手分野の不出ないよう指導をしていきたい。 ・質問紙調査の結果、読書が好きだと答える児童も多く、また、要旨を書くことができていた児童も多いので、一人一人が段落を捉え、お話全体の流れを正しく理解する学習にも力を入れたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の得点については、わずかに市、全国の平均を下回る結果となった。国語に基礎事項に当たる漢字を書く問題では同音異義語の理解、文法では、主語述語を正しく捉えることに課題がある。	・他教科やこれまでのテストの結果でも明らかのように、他学年で学習したことや、積み重ねて身に付けていくべき内容がなかなか身に付かないことが欠点な学年であるので、繰り返し繰り返し基礎基本内容の復習を取り入れ、習熟を図りたい。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

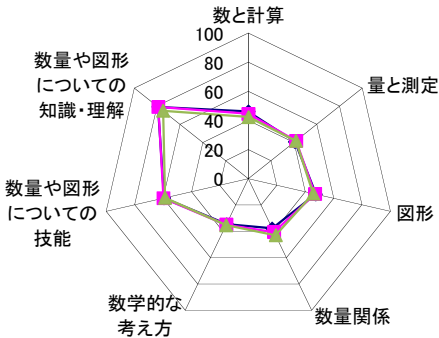
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	76.3	80.7	80.1
	量と測定	67.9	69.6	71.3
	図形	64.2	67.4	64.5
	数量関係	78.3	83.7	84.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	75.5	76.8	77.2
	数量や図形についての知識・理解	69.2	74.8	73.6



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	46.2	44.6	42.4
	量と測定	40.9	41.8	41.7
	図形	47.4	46.8	45.6
	数量関係	37.7	40.6	43.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	34.6	34.9	35.3
	数量や図形についての技能	59.4	59.8	58.7
	数量や図形についての知識・理解	79.2	79.1	74.9



★算数に関する質問紙調査の状況

○算数が好きな児童は60%で、授業がよく分かったと答えた児童75%と、市の平均に比べて高いとは言えないが、算数の勉強が大切だと答えた児童は98%と学習したことが将来の役に立つと考える児童は多い。また、算数の問題の解き方が分からない時は、諦めずにいろいろな方法を考えたり、授業で学習したことを普段の生活に活用できないかと考えている児童も多い。苦手な問題も休み時間に質問するなど意欲的に学習する様子も多くなり、少人数指導の効果が表れていると考える。今後も、児童の実態に応じた補的な学習や発展的な学習を行っていき、習熟度なども多く取り入れるなど個人差に応じた支援も充実させていきたい。また、基本的な計算の確実な定着を図るために、今後も反復練習や家庭学習の充実を図っていききたい。

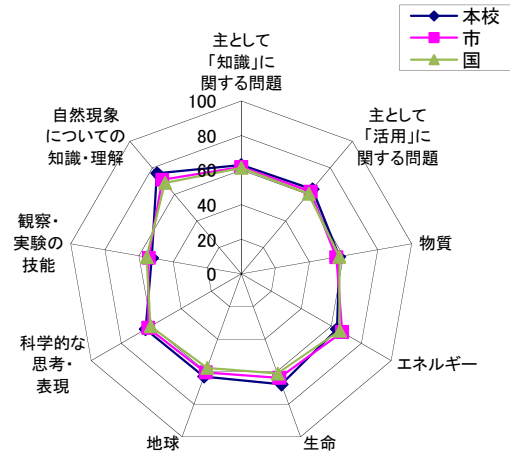
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○算数Bに関しては市の平均を5%、国の平均4%上回っていた。 ○算数Aに関しても市の平均を下回っているものの、個別の問題を見てみると、数の四則計算で正答率100%の問題などもあり、得意な問題と苦手な問題の二極化も見られる。 ●計算式で答えを出すものよりも、答えを推測したり、数の組み合わせを考えたりする問題が市の平均よりも10%以上多かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算力を高めることは必要だが、限られた時間の中で正確に答えを出す経験が少ないので、時間を図ってプリントやドリル問題を行うようにする。 ・文章問題では、問題を図式化したり、数直線を書いたりして、問題の内容をイメージできるように日々の授業の中で繰り返し取り組めるようにする。 ・割合については、基準量と比較量の関係をよく理解させ、設問にあった図や表を読み取ったり、書いたりできるようにしていく。
量と測定	○算数Aの分度器の目盛りを読む問題では、市の平均を3.5ポイント上回っていた。 ○算数Bの単位量当たりの大きさを問う問題では市の平均と同等であった。 ●単位量当たりの大きさの問題は平均は市と同等であったも、正答率が60%台と低かった。 ●決められた時刻に到着するために、条件に合わせて出発時刻を求める問題での正答率が低かった。	・単位量当たりの大きさは、問題を解く上で何を単位量としているのか理解させることが大切であり、またそれが分からずに立式できずにいる児童も多いので、必ず数直線を書き、単位量とそれ以外の数値の関係を視覚的にとらえられるように、授業の中で指導していく。 ・量と測定は文章問題が多いので、文章を読んで必要な数値や立式するために大切な言葉を読み取れるように、授業中それを意識した問いかけを多く取り入れ、線を引くなど問題の見方を繰り返し問いかけ、思考力を育てていく。
図形	○算数Bに関しては市と国の平均を上回っていた。 ○算数Aに関しても市の平均を下回っているものの、個別の問題を見てみると、三角形の性質や直方体の展開図の問題では市や国の平均を上回っていた。 ●算数Aでは、円を使って三角形の角度を求める問題で市や国の平均を2ポイント下回っていた。 ●算数Bの距離を図形の性質を使って説明する問題では、正答率は市の平均を上回ったものの、正答率が20%台と低かった。	・図形の特徴は、言葉では理解している児童が多いものの、それを活用する問題では個人差が見られた。また、図形の性質は複数学年で学習するので、それらをまとめて復習し、性質を確実に覚えた上で、それらを活用して問題を解く経験を増やしていく。 ・授業の中で、図形を構成したり分解したりして操作する活動を多く取り入れて学習を進めることで、実感的に理解できるようにし、さらに図形に対する感覚を豊かにできるように工夫していく。
数量関係	○算数A、Bに関して市と国平均を下回っているが、問題によって平均に近い問題も多い。 ○算数Aのグラフに表わされた事柄を読み取り、式で表現された数量関係を読み取ったりする問題では正答率は70%後半だった。 ●算数Bの示された情報量を整理し、筋道を立てて、比較量と割合から基準量を求める問題では、市も本校も正答率が6%前後と低かった。	・2つの数量の関係を求める学習では、表から数値を読み取るだけでなく、問題場面をイメージさせたり、図に表させたりして、関係を見つけれられるようにする。 ・授業の中だけでなく、年間を通して小プリントを継続していくなど、学習した内容を忘れないように、隙間の時間を活用して復習していくようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	62.9	61.9	61.3
	主として「活用」に関する問題	63.9	62.2	60.5
区分等	物質	57.4	55.7	57.4
	エネルギー	63.8	67.2	65.6
	生命	67.9	63.8	61.2
	地球	63.1	60.5	57.8
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	63.9	62.2	60.5
	観察・実験の技能	52.5	54.4	55.5
	自然現象についての知識・理解	75.9	71.1	68.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○理科の授業の内容がよく分かり、授業で学習したことが将来役に立つという肯定的な答え方をしている児童が多い。また、自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますかという設問は90%以上が肯定的回答であり、学校の近くに八幡山公園があり、低学年から校外学習などで行く機会が多いことも一因にあると思う。
●理科で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますかという設問では肯定的な回答が75%と低かったため、実験や観察の結果や考察を日常の事象を結び付けて考える工夫も必要であると考え。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質	○平均正答率は、市の平均よりも高く国の平均と同じだった。 ○実験結果やグラフから自分の考えを書いたり改善したりする、短答式や記述式の問題の正答率が市の平均よりも20%近く上回っていた。 ●予想が一致した場合に得られる結果を見通して、実験を構想する問題で正答率は市の平均と同じだが、50%前半と低かった。 ●メスシリンダーの目盛りの正しい読み取り問題で正答率が低かった。	・実験した内容で理解できている内容が多く、また、予想と結果から考察するという実験の流れが身に付いているといえる。しかし、道具の扱いで十分でない面もあったので、これからは、わかっているはずではなく、毎回道具の使い方などについても触れながら実験を行いたい。 ・今後も児童が興味をもって取り組めるような授業の展開をしていくと同時に、調べたい内容を導くためにはどのような実験をして、その結果から何が分かるかという科学的思考が育つような授業展開を工夫していく。
エネルギー	○平均正答率は、市や国の平均よりも低かったが、ふりこの問題では、市や国の平均を5ポイント以上、上回っているものもあった。 ●エネルギーの問題は、知識よりも活用を見る問題が多く、知識はあってもそれらを活用する力に課題がある。 ●電磁石に関する問題では、正答率が50%台のものもあり、学習内容の理解に個人差があることが分かる。	・グラフから読み取れる内容を活用して、課題を解決できるようにするために、実験結果をグラフ化したり、表に表したりして、物質同士を比較し、より課題解決に近いものを選び、もって説明できるような内容を取り入れる。 ・学習した内容を、日常生活の中の物質に置き換えたり、具体的に考えさせたりして、事象のしくみや関係を考えていく力を育成していく。
生命	○平均正答率は、市の平均を4ポイント、国の平均を6ポイント上回っていた。 ○メダカの雄と雌を見分けるポイントを選ぶ問題では、正答率が94%と市や国の平均を15ポイント以上上回っていた。また、生長に関する問題はほとんどの問題で、平均を上回っていた。 ●観察に使用する顕微鏡の各部分の名前や操作方法についての問題での正答率が低かった。	・植物や動物の生長について、観察したことを十分理解することができた。これ以後学習する人体についての学習では、実際には観察できない内容もあるので、デジタル教材を使って映像を見せることで、児童に図や絵や表などに表現させるなどして理解を深めていきたい。
地球	○平均正答率は、市の平均を2.5ポイント、国の平均を5ポイント上回っていた。 ○観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析する問題では、市や国の平均を15ポイント上回っていた。 ●星座の動きをとらえるための適切な記録方法を確認する問題では、正答率が52.8%と低かった。	・実験や観察での基本的な知識が十分身に付いていないので、授業で確認するとともに、理科室の掲示物の活用やミニテストなどを取り入れ、基本的な知識の定着を図る工夫をする。 ・理科の時間以外の朝の会や帰りの会などでも自然や気象などを話題にすることで、日常の事象について関心をもち、学習内容との関連を意識しながら生活できるようにする。

宇都宮市立昭和小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」という設問、及び「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」という設問、また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問での肯定的な回答の割合が100%を示している。肯定的に友達と関わり、充実感を感じることができている点は、高学年にしては大変素直で、なかなか得難い資質であり、この学年最大の長所である。児童一人一人にとって楽しく居がいのある学級経営の充実を図り、児童にとって魅力ある学校を目指したい。

○地域や社会に対する関心が高く、地域や社会のために何をすべきかを考えることがある、という児童が全国平均よりも15%も多い。学校行事への地域の方々の熱心な協力や、地域の行事が身近にある本校の良さを反映し、しっかりと児童が学び取ってくれていることが大変喜ばしい。

○「自分には良いところがあると思いますか」という質問に対しての肯定的回答の割合も市や全国に比べて高い。今後も児童の一人一人の良さを発揮できるように、また、個性を伸ばして行けるように指導をしていきたい。

○読書が好きだと回答した児童が多く、教科としての国語が好きだと回答した児童の割合も高い。好きなことが得意なことに結びつくように、興味を持ったことを調べる学習なども充実させていきたい。

○「授業の中でわからないことがあったらどうすることが多いですか」との設問では、家の人に尋ねると回答した児童の割合が全国平均よりも10%近く高い。家庭を信頼し、円満な家族関係が伺える。

●一方で「授業の中でわからないことがあったらどうすることが多いですか」の設問に対し、自分で調べると回答した児童が全国平均の四分の一で4%にも満たなかった。自ら学ぶ力を身に付ける必要もある。調べ学習の方法などをあらためて指導したい。

●将来の夢や目標をもっていると回答した児童が、全国平均よりも10%ほど少ない。インターンシップを経験し、変化があったとは思われるが、キャリア教育の推進が求められる。総合学習のまとめを生かせるよう指導していきたい。

●普段(月～金曜日)、4時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしている児童が20%を超え、全国平均を上回っている。家庭で宿題を全くやらないと回答した児童もあり、家庭学習の状況に大きな差があることが心配される。将来を見据え、学習に取り組む姿勢を育んでいきたい。